

②アートマネジメント実地研修

コンサート・アウトリーチ/ワークショップ実習

アートマネジメント関連の職業に於いて重要な柱となるのが、実際にコンサートやワークショップといったソフトを企画・立案・運営していく業務です。ここでは、現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」との連携で、コンサート制作、アウトリーチ/ワークショップ制作の実習を行います。同アンサンブルは、国際的に活躍する現代音楽アンサンブルであり、特に演奏能力のみならず、企画の先進性や問題提起力でも定評があります。さらに近年、そのような経験を生かしたアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいます。本研修では、当日スタッフとして運営に当たるだけでなく、事前の打ち合わせやリハーサルに立ち会い、企画から実施までの過程におけるホスピタリティを学びます。



photo by Higashi Akitoshi

コンサート

〈事前打合せ実習〉

2013年12月7日(土) 14:00 於：豊島区立椎名町小学校

〈コンサート本番〉

2013年12月16日(月) 19:00 (集合時間 10:00) 於：トッパンホール (東京都文京区)

【演奏予定曲目】 F. フィリディ：アナーキスト・セラランティエニの葬儀、近藤譲：フォーリング、K. サーリアホ：ノアノア、他
コンサートは、観客としての一般来場も歓迎致します。(チケット料金：全席自由 一般2,000円 / 学生1,000円)



アウトリーチ/ワークショップ

〈事前打合せ実習〉

2013年12月7日(土) 16:30 於：豊島区立椎名町小学校

〈アウトリーチ/ワークショップ本番〉

2013年12月12日(木) 13:30 (集合時間 11:30)

於：豊島区立椎名町小学校 音楽室

レポート実習

研修生各自が受講した題材から一つを選び「広報誌に載せる事を念頭に置いたレポート」を作成します。題材は、①アートマネジメント研究、②アートマネジメント実地研修、③シンポジウム・特別講演のいずれでも構いません。講師陣や専門家による添削、一部作品の見本誌への掲載を行います。

③シンポジウム・特別講演

シンポジウム シリーズ「批評：その文化芸術活動に於ける力」

批評は、文化的生産物やその文化的コンテクストへの、享受者による解釈と評価の表現です。そしてそれは、生産物の創造（創作、演奏、上演、等）と供給（文化事業の企画と実施、出版、等）と同じ程度に、文化芸術活動を動かす大きな力〔であるはず〕であり、この享受者の表現は、実際に、文化的生産物の創造と供給にも大きな影響を与えてきました。

それにも拘らず、批評というものについての真剣な議論（即ち、批評についての批評）は、これまであまり行われてきませんでした。その背景には、多分、一部には、これまでの芸術批評が（少なくとも19世紀以降の西洋の芸術活動に於いては）ジャーナリズムと強く結びついてきたために、芸術運動のプロパガンダや当代の流行嗜好の表明、つまりは、単に時事的な現象を扱うものであるに過ぎないという印象があること、又、一部には、「批評」の概念が実は非常に広範にわたるものであるために、それについての議論の的を絞ることが難しい、といった事情があったのかもしれませんが。しかし、たとえそうした困難を払拭し得ないとしても、批評についての真剣な議論を避け続けることは、建設的な姿勢ではありません。特に、相対主義的な多文化併存的状況の中にある今日の私たちにとって、文化芸術活動を組織的に考察し、推進していくためには、批評とそれが果たし得る文化的・社会的役割の検討と再評価が喫緊の課題となっているように感じられます。

本シンポジウム・シリーズでは、少しずつ異なる視点から3回の議論を重ねることによって、批評の現状とその力の可能性を探っていききたいと思います。

文責・近藤謙

関東コロキウム（東京）

Critiqueの諸相 —研究の現場から

2013年12月18日（水）17:30 於：お茶の水女子大学

司会：近藤謙（作曲家、本学名誉教授）

出席予定者（本学教員）：永原恵三（音楽学）、天野知香（美術）、中野裕考（哲学）、戸谷陽子（英文(演劇論)）

このコロキウムでは、2つの主題を巡って議論を行います：(1)文化的生産物を対象とする専門研究は、特に研究のパラダイムが実証主義から批判理論そして解釈学へと移ってきた今日状況の中では、それ自体、一種の「批評」（批判、解釈）行為です。こうした専門研究(学問)に於ける「批評」行為と、ジャーナリズムの批評との間には本質的な違いがあるのでしょうか。もしあるのだとすれば、それはどのような違いなのでしょう。(2)今日の文化に於いて、単なるエンターテインメントとそうでないもの(かつての概念で言えば「芸術」に当たるようなもの)との区別があるのでしょうか。もしあるとすれば、単なるエンターテインメントでないものは、文化の中でどのような位置づけと役割を持っている(持ち得る)のでしょうか。

北陸シンポジウム（金沢）

現代音楽はなぜ必要なのか？ —演奏と事業企画の現場から

※ 詳細は7頁をご覧ください

関西シンポジウム（大阪）

音楽批評には何ができるのか？ —批評の現場から

※ 詳細は7頁をご覧ください

中村桂子氏（JT生命誌研究館館長） 特別講演

2013年12月13日（金）17:30 於：お茶の水女子大学 徽音堂

中村桂子氏が現在館長を務められるJT生命誌研究館は最先端の研究者を擁す研究施設でありながら、同時に「表現」としての科学分野の情報発信を開館以来20年間重要視して来たユニークな館(ホール)です。今回は、そうした理念や知のマネージのあり方、そして近著でも述べられている「専門性」についてのお考え等を縦横に語って戴きます。

